プロジェクト　ユニバーサル農業の推進

目　標	・農福連携に取り組む農業経営体数　　R4：88経営体　→　R10：200経営体
挑戦する内容	・農業者等の理解促進と受入機会の提供 ・ワンストップ窓口の機能強化と人財の育成 ・農福連携の輪の拡大
関係者の声 ＝対話	【農福連携推進会議委員、推進方策策定専門部会アドバイザーの意見】 ・農業者の理解を進めるための周知活動や取組のきっかけづくりが必要（農業者、福祉事業者） ・ワンストップ窓口の運営を支援してほしい（福祉事業者の声） ・農業者と福祉事業所をマッチングするコーディネーターが必要（農業者、福祉事業者） ・ノウフクＪＡＳなどのノウフク商品を消費者にＰＲしてほしい（農業者） ・特別支援学校生徒の農作業体験の場の確保が必要（教育関係者） ・農福から林福、水福へと農林水産業全体へ取組を拡大してほしい（アドバイザー）
役割分担	全県段階～青森県農福連携推進会議において、推進の方向性と施策等を検討、協議 （農福連携実践者、生産者、福祉・商工・教育・金融関係、市町村、県等で構成） 地域段階～県民局：連絡会議等の開催、農協：チャレンジ農福の実施及び農業者への周知、 福祉事業所：ノウフクマルシェの開催、農業者：ユニバーサル農業の検証、 特別支援学校：農業実習・交流会の開催、市町村：農業者・福祉事業者への周知
変革後の姿	・多くの農林水産業者が取り組む環境を整え、障がい者等が担い手の一員として活躍し、農業経営が発展 ・障がい者等が安定的な収入を得ることで生きがいを持った暮らしを実現 ・一般県民に農福連携が浸透し、農福連携関連商品が選ばれる社会

令和６年度計画

挑戦する内容

１　農業者の理解促進と受入機会の提供
- 農協の広報や県ホームページを活用した情報発信（８～２月）
- 農業者等と農業団体及び福祉事業所との交流促進（６地域、交流会）
- チャレンジ農福・林福・水福の実施（６～１月、62件）
- ユニバーサル農業の検証（野菜、１か所）

２　ワンストップ窓口の機能強化と人財の育成
- ワンストップ窓口の活動支援（５～２月）
- 農業者側と福祉側をマッチングできる人財の育成（８～９月、研修会）
- 農作業受託可能な福祉事業所の拡大
  （６～１月、福祉事業所対象の農業体験会）

３　農福連携の輪の拡大
- ノウフク商品の開発及び販売促進（８～２月、ノウフクマルシェ）
- 認証制度「ノウフクＪＡＳ」の活用の促進（８～９月、研修会）
- 特別支援学校生徒の農業交流、農業実習などの農作業体験の拡大
  （５～11月）

障がい者による
にんにくの種こぼし

ノウフクＪＡＳセミナー

対話

・部会を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、意見を参考に事業構築（８月、１月）
・全県段階
　青森県農福連携推進会議を開催し、委員と事業計画等について意見交換の上、意見を事業内容に反映（６月、２月）
・地域段階
　各地域で農福連携連絡会議を開催し、農業者と福祉事業所とのマッチング方法等について意見交換を行い、地域ごとのワンストップ窓口の機能強化策を検討（各地域２回）